

楽

Sapporo Education and Culture Hall News

RAKU

文
化

「
間
」
の

か
け
声
と



かけ声と「間」の文化

歌舞伎の醍醐味ともいえる「かけ声」は、瞬時に「間」を読む、スリリングな駆け引きの世界。



「ちょうどいい間取り」なんとか間にあった」どうにも間が悪い。日本には、「間」のつくことばが多数ありますが、実はこの「間」という感覚、日本独特の感性のようです。たとえば「間」を英語にしようとするとき、space(空間)でもありtime(時間)でもあり、timing(間合い)でもあり。「間」そのものを表現できる単語が英語には見当たりません。時間や空間、いろいろなものを含めて表すことのできる「間」という独特な感覚。この感覚がイキイキと根付いている日本文化のひとつに、歌舞伎のかけ声があります。

「中村屋!!」まってました!」などなど芝居の最中に客席から聞こえてくる、小気味のいい声。実はこれは、大向うと呼ばれる歌舞伎芝居の「通の人」が、役者のこそぞという時にかけているもの。能にも落語にもない、歌舞伎ならではの「役者」と「見物人」の間にあるやり取りです。うまいかけ声をかけることができれば役者の一体感を感じられ、会場の空気も一変させる力を持っています。かけ声は「大向う」でなくても、一般の観客もかけることができますが、なにしろ難しいのは声をかけるタイミング、「間」です。ま

基本的には役者が大見得を切った時や登場・退場の時にかかる間違いはありません。ですが、同じ演目でも役者が違えばセリフのタイミングは違ってきますし、もつと深く追求すれば、役者のその日のコンディションによっても間や、かける声の大きさなどを変える必要があります。微妙な違いを瞬時に読み取り、絶妙な「間」でかけ声をかけるのが芝居の通、「大向う」なのです。なかなか奥深いかけ声の世界ですが、大切なのは芝居に感動した気持ち、場の空気を読んで表現するということ。難しさはあるけれど、絶妙な声をかけることができれば、出演者も気持ちよく演技に集中することができ、胸のすくような観劇体験に、きつとなるはずですよ。

かけ声あれこれ

大向うとは

かけ声のベテランともいえる方たちのこと。もともとは舞台の向こう正面の最上段にある立見席の場所を「大向う」と言っていました。足しげく歌舞伎に通う通な客がご最良の役者に声をかけていたこと由来します。現在、劇場公認の大向うの会は東京だけで3組、関西に1組があります。

声をかける人

基本的には観客であれば誰でもかけることができます。明確なルールはないものの、マナーを守り、淀みない声でかけるのが大切。独り言のように聞こえないよう大きな声を出しましょう。また、女性のかけ声も禁止はされていませんが、歌舞伎は男性の役者が成立させている様式美の世界なので、ということを理解しておきましょう。

かけ声のタイミング

かけ声の大切なポイントが、タイミングです。基本は役者が格好良く見得を切った時や、名セリフを発する時、あるいは登場や退場のタイミングで、一息に声を張り上げるのがコツ。最初はなかなかタイミングが取れないので、大向うが声をかけた後などに聞いてみましょう。

かけ声の種類

一般的なのが屋号。歌舞伎俳優にはすべて屋号が付いています。たとえば十二代目市川團十郎にかけ声をかけるときは成田屋、七代目尾上菊五郎↓音羽屋、十八代目中村勘三郎↓中村屋など。観賞目に出る役者さんを事前にチェックしておきましょう。



汎用句

誰にでも使いやすい「たつぷり!」「まってました!」「ご両人!」などのかけ声もあります。ですが、しっとりとした男女のシーンでは声を絞って、「ご両人」、大きな迫力の見得を切るときには元気よく「まってました!」など、その場の雰囲気合ったかけ声がかげられると盛り上がりがあります。

代目

襲名披露の興行となる舞台やその後しばらくの公演では「代目!」という声が多くかかれます。ですが、しよつちゅうかけるものではないので下調べをし、まわりの様子などをみてからかけるのが無難です。



第3回「舞台かけ声講座」

今年で3回目をむかえる「舞台かけ声講座」。今回の講師は文楽、歌舞伎など古典芸能の評論家で大向うの名人も呼ばれる山川静夫さん。昭和・平成の歌舞伎を客席から眺め続けた経験から、かけ声の醍醐味を語っていただきます。

また、「外部売体操」の実演もあります。

◎講師／山川 静夫
“NHKの顔”として活躍した名アナウンサー。そのユーモアにあふれた語り口でNHKに新風を吹き込む。1994年退職。現在は、エッセイストとして活躍中。

平成24年6月9日(土)
16:00開講 (15:30開場)

札幌市教育文化会館 4階講堂

定員 120名

料金 2,500円 (全席自由)
教文ホールメイト 2,000円
(教文プレイガイドのみ取扱)

[チケット]
教文プレイガイド
tel.011-271-3355
[お問合せ]
札幌市教育文化会館 事業課
tel.011-271-5822



「松竹大歌舞伎」

平成24年7月5日(木)
①13:00開演 ②18:00開演
札幌市教育文化会館 大ホール
[全席指定・税込]

特等席 9,500円 (教文ホールメイト 8,900円)
一等席 8,500円 (教文ホールメイト 7,900円)
二等席 7,500円 ※二等席のホールメイト料金はございません。

[出演]
尾上菊五郎、中村時蔵 ほか
[演目]
義経千本桜 三幕(昼・夜同演目)



堀越 一寿
(歌舞伎大向弥生会)

幼少から歌舞伎に親しむ。歌舞伎座などに通いながら大向弥生会に所属し、「成田屋!」「日本一!」などの大向うを掛ける。著書「平成歌舞伎見物」(筆名:樽屋 壽助)



ミュージカル

『ヘルパーズ～あなたがいる風景～』

6月18日(月) 18:30開演 札幌市教育文化会館 大ホール

出演 = 中尾ミエ 松尾伴内 森川由加里 ほか

料金 = 全席指定 5,000円(教文ホールメイト 4,500円)

チケット = 教文プレイガイド・道新プレイガイド・大丸プレイガイド・チケットぴあ・ローソンチケットにて4月12日(木)より発売

お問合せ = 札幌市教育文化会館 事業課 tel.011-271-5822
教文プレイガイド tel.011-271-3355



STORY

芸能界で長年活躍している大物タレント・矢沢マリ子(中尾ミエ)。偶然出会った車いすの少年と介護ヘルパーに「車いすを押させて」と言うが、あっさり断られてしまう。納得がいかずマネージャー(松尾伴内)に理由を調べさせると、「介護ヘルパーになるのはどうですか。資格が必要なので学校に行かなくてはなりません」と言う。面倒で諦めるだろうというマネージャーの当ては外れ、マリ子は喜んで入学。そこでは……。

INTERVIEW

「ヘルパーズ」は、再演を重ねて今年で5年目。より良いものにするために練り上げ、年々、充実度を増しています。私は企画プロデューサーも務めていますが、主な役割はお金集めとプロモーション(笑)。作品自体の企画は長い付き合いの仲間が安心して任せ、スタッフがみんな頑張って頑張ってくれています。

そもそも私が、作品を作り、演じる場をこれからの若い人たちに与えられないかと思ったのが始まり。たまたまヘルパーの資格を持つて、実際に仕事をしているスタッフがいたので、この題材になりました。初演時に比べてヘルパーの仕事への関心は高まってきましたが、まだまだヘルパー＝高齢者介護と思われています。でも、本当に人ごとではないんですよ。私も演じるようになって関心が高まり、特別なことではないという意識になったことで、以前なら声をかけにくかった車いすの人に街で気軽に話しかけお友達になつたりもしています。

介護施設などに行く機会も増えました。ボランティアではなく、個人的にどんなところか見てみたいから行くんですよ。だって、いつか自分も行く場所ですよ。だって、心当たり良い

「中尾ミエ／インタビュー」
演じるたびに私の意識も変わり、
老いも障がいも人ごとではない
と実感するようになりました



中尾 ミエ
[なかお みえ]

昭和21年、福岡県生まれ。昭和37年、「可愛いベイビー」でデビューし、100万枚を売り上げる大ヒットに。以来、コンサート、ディナーショー、テレビ、ラジオ、映画など多方面で活躍。今年、デビュー50周年を迎えた。

環境になってほしいから、現状を見て改良したいところを人任せではなく自分で考えたい。外国に行った時も、施設を見てくるようにしています。いろいろな施設を見ていて音楽がないことに気づき、歌手である私が役立てそうなことも発見できましたから、これからはもっと顔を出すつもりです。

人間はみんな老いに向かっているけれど、それを楽しく迎えられるというのをこのステージから伝えたいですね。年をとっても、障がいを持つても、いかにポジティブにとらえていくか。例えば、スウェーデンの介護施設では、ケアする側も含めてみんなが楽しめる方法を考えましようという発想。私は、そうでなければならぬと思うんですよ。介護は辛いという印象を持ってしまつたら、年をとるのが怖いでしょう。そうではなく、いかに楽しんで楽しい人生を送るか。楽しさはそれぞれ違うから、自分はどうありたいかをみんながきちんと考えてみる。避けられない死や老いについて、もっとオープンに話せるようになった方がいいですよ。この公演が、そのきっかけになってくれればと思っています。

教育文化会館と福祉の関わり

札幌市教育文化会館では、劇場だけではなく、地域に向いて福祉施設などに芸術文化を届ける活動を行っています。市民喜劇団「教文13丁目笑劇一座」が介護老人施設でコントを上演したり、「さっぽろオペラ祭」では老人ホームで歌のお届けコンサートを開いたりしています。教文コミュニティダンス部は、昨年12月グループホームでのダンスのワークショップを行いました。施設利用者や入所者の方と介護職員が一緒になって身体を使ったゲームをするなどして、ダンスを通じたコミュニケーションを育み、参加者に好評をいただきました。



Mie Nakao

Fumio Ueda

ミュージカル「ヘルパーズ～あなたがいる風景～」

女優

札幌市長・(財)札幌市芸術文化財団理事長

中尾ミエ × 上田文雄

ステージを楽しみながら、「介護」を考えるきっかけに

「ヘルパーズ」は、「介護」についてたっぷり笑いながら考えさせられる作品。かねてから親交のあるお二人に、札幌公演への期待を語っていただきました。

上田 これからの高齢化社会では、介護に従事する方々が増えています。このミュージカルは、そういう方たちを勇気づけ、今は元気な方々にももっと理解を深めていただくのにもっといい企画だと思っています。内容が重たくなく、しかも問題意識はしっかりある。まるで無理解だったのに、たまのきつかけで理解を深めていくというのが中尾さんの役どころです。一般の方がまさに同じ立場で入っていて、とても分かりやすいと思いますね。

中尾 ありがとうございます。正直言って私は、これを始めるまで介護にはあまり縁がなかったのですが、演じるようになって人ごとではないとよく分かりました。高齢者に限らず、障がい者に対する介護もありますし、介護をする側の人もいますから、たとえ若くても人ごとではない。実際に役立つテーマで、単なる楽しいミュージカルというだけではないので、若い学生さんやヘルパーとして仕事をしている皆さんにも見ていただけたらうれしいですね。

上田 とてもいい機会です。私もおすすしたいと思っていますね。

中尾 これまでの公演をヘルパーさんたちも見なくてださっていて、なかなか目の見えない仕事なので取り上げてくれてすごくうれしいし、元気が

出たのでまた明日から明るく仕事をします、と言ってくださいね。

上田 それは素晴らしいですね。私は、こうした芸術や文化、芸能をとっても大事に思っています。なぜなら、美しいものにはみんな絶対に感動するはずで、多くの人が心を共有できる。感動を共感に広げていく力を持っているので、人を動かしたり、行動を起こさせたり、新しい発想をするためのきっかけやエネルギーになる。いろいろな力がわいてくるはずなんです。芸術家や芸能人の皆さんは、感動を伝えるために一生懸命に練習や工夫をされているわけですから、それを同じ空間で見られる舞台には、非常に意味があると思います。

中尾 市長のような立場の方が文化や芸術に関心を持ってくださるのは、本当にうれしいです。今回の公演には、介護に関する専門用語なども出てきますが、ミュージカルとして楽しく表現すると興味を持ってもらえます。音楽の力を通すと伝わりやすいです。初めての方も構えないので受け止めやすいんですよ。

上田 私は、舞台の上で表現するというのはただ事ではないと思うんですよ。それは中尾さんが感動、共感を生むための素晴らしい技術を鍛え上げてこられたからできること。私も自身も公演を楽しみにしています。